

先人の知恵から

20

かうんせりんぐるうむ かかし

河岸 由里子

このシリーズも20回を数えた。年4回書いているので5年という年月が過ぎたことになる。まだ、「き」の所ということを考えるといつまで続けられるかということになる。まあ、好き勝手に書いているので、ボチボチでよいと思っている。

今回は、「き」で始まる言葉から次の8つを挙げてみた。

- 居は気移す
- 漁夫の利
- 器量より気前
- 麒麟児きりんじ
- 義を見てせざるは勇無きなり
- 木を見て森を見ず
- 琴瑟相和すきんじつあいわ
- 琴瑟調わずきんじつととの

<居は気移す>

地位や立場、環境などは、その人の性格や考え方を変えろということ。居場所は人の気持ちを変化させるという意から。

出典 孟子

度々社宅などでみられることだが、職場での父親の上下関係が、奥さんや子どもの関係性にまで影響し、いじめの要因になったりする。父親は父親、母親は母親、子どもは子どもと分けて考えることが出来ない。親の言動を見て子どもは行動する。親が他の親を馬鹿にすれば、その子も同じようにその家の子を馬鹿にしたりする。見た目やお金のあるなしで人間の価値が決まるわけではないのに、それを教えられないとしたら親の責任である。

或いは、とても衛生的ではない家で過した子どもが、施設で暮らしたあと、家に戻ると、不衛生な家の方が落ち着くと言ったりするが、これは、小さいころから慣れた環境が一番という見本だろう。

昔担当したケースで、人の物は自分の物という家があって、子どもたちが何か欲しがると「とって来い」という教育をしていた。もちろん違法行為であるが、子どもたちは言われたとおりに自転車や子犬などをとってきた。教育は、良くも悪くも親が第一の見本である。子どもたちを望ましい子に育てたいのであれば、先ずは親自身が自分を振り返るべきであろう。

<漁夫の利>

当事者同士が争っているすきに付け込んで、第三者が何の苦労もなく利益を横取りすることのたとえ。

出典 せんごくさく 戦国策

この諺は、三人兄弟などで時々使う。上の二人がお菓子を取り合って喧嘩をしているすきに、一番下の子が、さっさとお菓子を食べてしまったなどと言うことは度々起こる。

そんな時に親は誰を叱るかという、喧嘩をしていた方を叱ることが多い。末っ子は小さいからと許されてしまう。最近では親が横取りしてしまうことまである。

喧嘩をしているのは悪いが、横から何の苦労もなくとっていくのはなお良くない。そういう教育も必要ではないか。小さいからとなんでも許されるのは、大きい子にと

っては不満にしかならないだろう。

英語では・・・

Two dogs fight for a bone, and the third runs away with it. (二匹の犬が骨をめぐる争っていると、第三の犬がその骨をくわえて逃げる。)

<器量より気前>

顔立ちの美しさよりも、気立ての良さが大事だということ。

最近の子どもたちは、顔立ちもスタイルも良くなっている。おそらく椅子生活になったことと食べ物の影響が大きいのだろう。小学校では、ブランド物を着てくる子もいて、子どもたちの間で、どこのブランドが良いなどという話も出ている。子どもたち向けのファッション雑誌もあり、子どものモデルがもてはやされている。

フェイスブックやツイッターで自分の写真をあげている子も多い。加工もできるので可愛く写っている。

しかし、性格ブスという言葉がかつてあったが、可愛いから性格も良いというものではない。子どもたちが自分は可愛くないから駄目だと言っているのを聞くたびに、「顔じゃない！性格だ！」と言っているのだが、そんな時にこの諺を伝えている。「器量」という言葉は古いかもしれないが、諺は諺、古い言葉に味わいがあると思っている。

＜麒麟児＞

ずばぬけた才能を持つ、将来有望な青少年のたとえ。麒麟は聖人が世に出る時に現れるという中国古代の想像上の動物で、雄を「麒」、雌を「麟」といい、身体は鹿、尾は牛、ひづめは馬に似ている。「麒麟児」はその子という意。

麒麟児と聞くとお相撲さんを思い浮かべる人も多いのではないか。麒麟児にこういう意味があったと知っている人はどのくらいいるだろう？「ずばぬけた才能を持つ、将来有望な青少年」にであうことは少ないだろうが、無いわけではない。数学オリンピックや物理オリンピック、クイズ王などに出ている若者たちは、すごい才能を持っている。日本では天才児を飛び級させたりということが殆どないが、海外では優秀な子はさっさと大学に行ってしまう。

その子その子にあった教育は必要である。優秀な子は優秀なことで優遇されても良いのではないだろうか？環境は、その子の発達に大きく影響する。それは前述の通り。そうであるなら、優秀な子を伸ばしてあげられる環境を作るべきであろう。

＜義を見てせざるは勇無きなり＞

人として当然行うべき正しいことと知りながら、それを実行しないのは、その人に本当の勇気がないからだということ。孔子のことは。

出典 論語

子どもたちに、どう生きるべきか、何が正しいかについてを示すのは大人の役目である。しかし、どれだけの大人が、子どもたちに見本となるような道を示せるだろうか？

そもそも、大人たちが、正しいことを通そうとしない。個人主義に走り、自分さえよければ他の人はどうでも良いと思う人たちと、ボランティアなど、誰かの役に立つことをして自己存在感や肯定感をあげている人たちと、世の中が二分化しているようで、後世のために、子どもたちのために、世の中をよくしようとか、環境を良くしようとか、年金問題に取り組もうとかと思っている一般人は少ない。どこでも文句は言い合っているが、それを実際に行動化する人はほとんどいないのである。

それでいて、子どもたちに押し付けようとしているとすれば、それは余りにおかしい話であろう。

思っているだけで、何も行動しなければ、変わらない。どんな小さなことでも、大人がそれぞれ少しでも行動化するなら、世の中は大きく変わっていくだろう。そんな行動を見せることが、子どもたちへの良き見本としての大人のあるべき姿ではないか。

＜木を見て森をみず＞

物事の一部や細部に囚われて、全体を見失うことのたとえ。一本一本の木に注意を奪われて、森全体を見ようとしないうちから。

教育においても、やらねばならないこと

が多すぎる関係からか、物事の多くを教え
ず、見方もある程度限られた教育が多い。
しかし、世の中の現象は、必ずしも 1+1
=2ではない。人間も、小さく分解してい
けば、分子の塊である。分子の一つだけ
をとっても、それが人間の一部だとは思
われないだろう。組み合わせさせて、多
くが見えて初めて人間と分かるのである。
小さい一部を観ることも大切ではあるが、
一部にばかり囚われていると、物事の生
業、情勢等、その一部と絡まっていく
全体を見失う。

英語では・・・

You cannot see the wood for trees.
(木々だけを見ているために、森を見る
ことができない) You cannot see the city
for the houses. (家屋ばかり目がいっ
ているために町が見えない)

＜琴瑟相和す＞

夫婦の仲がきわめてむつまじいこと
のたとえ。また、兄弟や友人の仲の良
いことにもいう。琴と瑟は合奏すると
音がよく調和することから。

琴は、中国の代表的な弦楽器。箏の
琴に似ているが琴柱がない。七弦琴。
瑟は、中国に古くからある二十五弦
など大型の弦楽器。

出典 詩経

＜琴瑟調わず＞

夫婦や兄弟の仲が悪いことのたと
え。琴と瑟の調子が狂って、音が調
和しないという意から。

出典 漢書

この二つは反対の諺であり、諺には
このように反対のことを言うものが多
々あるので、一緒に取り上げてみた。

「相和す」方は、仲の良いことであ
る。夫婦の仲が良いことは、子ども
にとっても大事なことである。しか
し、夫婦は所詮他人同士で、育った
環境も異なるのだから、中々仲良
く居続けるのは大変で、双方に相
当の努力が必要となる。

同様に兄弟や友人との仲も、仲睦
まじい状況であることは、互いの努
力によるところが大きい。どちらか
一方だけが頑張ってみても上手く
いかない。

ちょっとしたことで、調和が乱れ、
関係性が崩れてしまうことはある。
特に夫婦の間では、距離が近いがゆ
えに、不調和が起こりやすい。そし
てそれは、子どもに少なからず影響
を与える。子どもの前だけでも何と
か仲良くできれば違うのだろうが、
狭い家の中ではそうも行かない。

「琴瑟調わず」にならないように
気をつけたいものである。

出典説明

孟子・・・七編

中国、戦国時代中期の思想書。孟
子の言行を門人が編纂したもので、
『大学』『論語』『中庸』とともに
四書の一つ。性善説に基づく道徳論
を説き、霸道（武力による政治）を
否定して王道（仁徳による政治）を
提唱している。

戦国策・・・三十三編

中国の雑史。前漢の劉向^{りゅうきやう}の編。戦国時代に諸国を遊説した縦横家^{じゆうおうか}が諸侯に説いた戦略を、国別に集めて三十三編にまとめた所。いくつかの書にのっているものを校訂・編集したもので、当時の政治・外交・軍事などを知るための貴重な資料。現在伝わるものは、北宋^{ほくそう}の曾鞏^{そうきやう}が欠けた部分を補って編纂したものに姚宏^{ようこう}が注を加えた三十三巻本と鮑彪^{ほうひやう}の十巻本の二系統がある。

論語・・・二十編

儒教の経典。『大学』『中庸』『孟子』と共に四書の一つ。孔子の言行や門人たちとの問答を記録した書で、孔子の死後に門人たちが編集したものとされる。孔子は諸国を回って仁の徳による政治を説いたが、本書は孔子の人物や思想を知るうえで極めて重要な資料である。

詩経・・・

中国最古の詩集。五経の一つ。孔子が約三千の古詩の中から選んで成立したと言われるが未詳。紀元前十世紀から前六世紀ごろまでの詩三百十一編（内六編は題名のみ）を収録。風^{ふう}（国風ともいう。民謡）・雅^が（宮廷の祝宴歌）・頌^{しょう}（祖先を祭る歌）の三部構成。

漢書・・・百二十巻

中国の正史の一つ。『史記』に次いで二番目に成立した正史で、高祖^{こうそ}から平帝^{へいでい}までの前漢231年間の史実を記した歴史書。後漢^{ほんこ}の班固^{はんこ}が父班彪^{はんひやう}の着手した修史を引き継いで完成し、班固の死後、妹の班昭^{はんしやう}が表十巻と「天文志」を補った。『史記』が上古から漢代までの通史であるのに対し、『漢書』は前漢一代だけの断代史であり、以降の正史の典型となった。